

◎単身高齢者と母子家庭のシェアハウス

遊休不動産活用や高齢者向けサークル事業などを手がけるナウいは、子育て支援事業を行っているハーモニーレジデンスとこのほど提携し、単身高齢者と母子家庭のシェアハウス事業「ハーモニーIGH」を展開する。初年度50組、3年間で200組のユニット成立を目指す。

高年齢者1人と母子家庭2世帯を1ユニットとし、3LDKの物件でのシェアを基本とする。オーナーもしくは不動産管理会社は入居者と賃貸借契約を結び、ナウいとハーモニーレジデンスがオーナーもしくは不動産管理会社と業務委託契約を締結。両社が入居者に対し、共同生活の支援サービスなどを提供する。高年齢者による子どもの世話や、母親による高年齢者への買い物、家事支援などの効果を見込んでいる。入居に当たっては、高年齢者はナウい主宰のサークル加入が条件。入居前に高年齢者と母子家庭による交流会を行い、条件を整えばシェアハウスのユニット成立となる。入居成立時に、オーナーまたは管理会社は家賃の15%を、入居期間中は家賃の15%相当を両社に支払う。

◎富士経済、既存住宅のオール電化が増加

富士経済は、住宅分野のエネルギー動向についての調査を発表した。新規住宅の着工件数は10年度以降も横ばい、あるいは減少で推移すると予想されるが、オール電化住宅の割合は増加していく見通し。10年度では新築住宅のうち3割強がオール電化住宅となると予測している。

同社の調査によると、10年度の新築のオール電化住宅は26・1万戸で、新築住宅全体におけるオール電化率は33・8%、15年度は27・5万戸でオール電化率は35・8%、20年度は27・8万戸で37・2%に拡大する